

「研究開発プラットフォーム」による取組効果の検証について(案)

【報告書中の記述】

「研究開発プラットフォーム」による取組効果を検証するための指標等を明らかにする。
我が国の研究基盤全体としてPDCAサイクルを効果的に回す。

【具体的アクション(案)】

平成24年度中に、「研究開発プラットフォーム」の取組効果を測るための指標、達成目標、各指標の把握手法等の検討を行い、明確化する。

本工程表に記載された具体的アクションについて、毎年度、実施状況のフォローアップを行い、公表する。
「研究開発プラットフォーム」の取組効果を測るための指標等について、毎年度、適切に把握し、公表する。
本工程表については、必要に応じて見直しを行う。

3つの視点で指標を設定し、取組効果を検証。(具体的な指標例は次頁以降を参照)

個々の施設や機関、プラットフォーム単位で把握すべき指標

共用関連施策等の対象となっている施設、機関、プラットフォーム単位での取組実施状況や定量データ。
各施設や機関は、国の施策の目的に応じて、自ら、指標毎の目標値を設定。
目標達成状況については、基本的には国の施策担当者が常に把握し、改善等につなげていく。

研究開発プラットフォーム全体として把握すべき指標

研究開発プラットフォーム全体における取組実施状況や定量データ。個々の施設・機関の取組状況を集約するだけでは測ることができない。
本委員会において、指標毎の目標値を設定した上で、達成状況を検証し、研究開発プラットフォーム関連施策全体の改善等につなげていく。

利用者(研究者)の意識に関連する指標

毎年度、調査機関等を通じて把握し、研究開発プラットフォーム関連施策全体の改善等につなげていく。

施設単位、機関単位、サブプラットフォーム単位で把握すべき指標例

【取組1.及び取組2.に関連するもの】

(定量的指標)

- ・施設稼働率
- ・外部利用時間、件数
- ・産業利用時間、件数
- ・若手研究者利用件数
- ・海外研究者利用件数
- ・新規参画機関数(希望数、実施数)
- ・新規参画企業数(希望数、実施数)
- ・産学・産独共同研究件数
- ・論文、特許件数
- ・企業による成果専有利用件数
- ・運転費に占める利用料で賄う費用の割合
- ・国等の研究開発プロジェクトによる利用件数
- ・複数の施設・設備を有効に連携した利用件数

(定性的指標)

- ・優れた研究成果(学術的インパクト、商業的インパクト等)の創出
- ・利用者や利用分野の多様化、新たな研究領域の開拓

【取組5.に関連するもの】

(定量的指標)

- ・研究支援者、技術者の雇用人数
- ・共用施設が実施する教育取組への参加者数、参加企業数

研究開発プラットフォーム全体として把握すべき指標例

【取組1.及び取組2.に関連するもの】

(定量的指標)

- ・共用施設・設備総数、共用取組を実施する機関数
- ・機能別サブプラットフォーム形成件数
- ・国等のプロジェクトに関して優先利用の枠組みを設けている施設・設備の数

【取組3.に関連するもの】

(定量的指標)

- ・国内市場、海外市場における国産機器のシェア(機種別、研究領域別)

(定性的指標)

- ・国で開発した技術・機器を用いた優れた研究成果の創出

【取組4.に関連するもの】

(定量的指標)

- ・最先端研究施設の国際的に見た技術レベル(技術領域別)

【取組5.に関連するもの】

(定量的指標)

- ・研究支援者(特にリサーチアドミニストレータ)、技術者(特にサイエンステクニシャン)の数
- ・研究支援者、技術者を適切に処遇するための仕組みを設けている機関数

利用者(研究者)の意識に関連する指標例

- ・研究者の利用満足度(研究領域別、地域別、年代別、所属機関種別)
- ・共用施設・設備の社会的認知度
- ・我が国の研究基盤の国際的優位性(技術領域別、研究分野別)

【主な論点】

研究開発プラットフォームの効果を検証する上で特に重要となる指標とは。(マイクロマネジメントになりすぎないように)

重要となる指標について、達成目標と適切な達成期限をどう設定するか。